

議 事 概 要	
会議の名称	令和6年度第1回長久手市地域保健対策推進協議会
開催日時	令和6年8月2日（金）午後2時から午後3時30分まで
開催場所	保健センター3階 会議室
出席者氏名	<p>委員</p> <p>加藤 潤司（長久手市スポーツ推進委員代表）  川本 さつき（長久手市社会福祉協議会会長）  駒村 和廣（自治会連合会長・区長会長代表）  松永 昌宏（愛知医科大学衛生学講座医師代表）  横井 英臣（市内歯科医師代表）  安藤 京子（長久手市教育委員代表）  川本 玲美（食と健康を考える会代表）  古橋 完美（愛知県瀬戸保健所健康支援課長）  近藤 高明（学識経験者 名古屋大学名誉教授）  中原 亜希子（公募委員）</p> <p>事務局</p> <p>市長 佐藤 有美  福祉部長 川本 満男  福祉部次長 貝沼 圭子  健康推進課課長 若杉 雅弥  同課健康増進係係長 近藤 小百合  同課健康増進係専門員 藤田 由美  同課健康増進係主事 川合 主真</p> <p>子ども部次長 近藤 かおり  子ども家庭課課長 遠藤 佳子  同課母子保健係係長 今村 知美  同課母子保健係主任 永井 佑未子</p>
欠席者氏名	森下 雅史（公立陶生病院小児科医師代表） 横山 智絵子（市内医師代表） 廣中 省子（公募委員）
会議の公開・非公開	公開
傍聴者人数	なし
審議の概要	第1 保健事業（令和5年度実績および令和6年度計画）について 1 健康づくり事業 2 成人保健事業 3 母子保健事業 4 予防接種事業

	<p>第2 健康づくり計画（第3次）策定について</p> <p>1 健康づくり計画（第3次）策定の進め方</p> <p>2 健康づくり計画（第3次）概要案</p> <p>3 健康づくり計画（第3次）骨子案の構成</p> <p>4 健康づくり計画（第3次）骨子案</p>
問合先	長久手市福祉部健康推進課（保健センター） 電話 0561-63-3300
備考	
議 事 録	
<p><b>1 市長挨拶</b> 長久手市長より</p> <p><b>2 委嘱状</b> 机上交付</p> <p><b>3 会長・副会長選出</b> 推薦により近藤高明委員を会長に、駒村和廣委員を副会長に選出</p> <p><b>4 会長挨拶</b> 近藤会長より</p> <p><b>5 議題</b></p> <p><b>第1 健康推進課事業（令和5年度実績および令和6年度計画）について</b></p> <p><b>事務局説明</b> 資料に基づいて説明</p> <p><b>質疑応答・意見等</b></p> <p>委員 資料1の6ページにあるナッジ理論とは何か</p> <p>事務局 検診で例えると「5分で受診ができるのでぜひ行きましょう。」「500円で受診出来るのでぜひ」等、ちょっとした声かけで、本人が良い選択をできるように誘導し、受診するようにするもの。</p> <p>委員 歯科検診にしか記載していないが、他のがん検診等にもナッジ理論は使用しているということか。また、効果が出ているものか。</p> <p>事務局 歯科検診やがん検診の通知にナッジ理論を使用している。今年度から始めているので、今後効果が分かるもの。</p> <p>委員 産後ケアの事業について、令和5年度の宿泊型の登録者数が12人、利用日数も48日と増加しているが、何か背景はあるのか。</p>	

事務局

今年度も増加しており、7月31日時点で宿泊型は、17件申込をいただいている。今年度については、全ての対象者に対して、自己負担の軽減を開始していることもある。

昨年については、宿泊型の委託先が増加していることや、委託先が紹介をするため、登録者数が伸びている。

委員

健康推進課でたくさんの事業があると思うが、実施者としては健康推進課だけになるのか。また、事業評価はどういった観点で行われているのか。

事務局

がん検診等の検診事業については、委託をして実施しているものが多くなっている。また、健康づくりを推進する事業については、健康推進課が中心となって行っているものが多いが、食と健康を考える会や愛知医科大学と連携をして講座等を進めているものもある。様々な機関と連携して健康づくり事業をできるように進めている。

評価については、事業ごとの評価、年間での評価や会議を通して評価している。また、健康づくり計画の健康づくりの指標を見ながら、評価や進捗管理をしている。

母子保健事業についても、一部の教室については委託しているものもある。産後ケア事業については、委託をしている。小児の健診については、係の保健師が実施しているものになる。

事業の評価については、この会議で報告させていただくものと、子ども子育て支援事業計画を策定しているので、そちらの方でも評価を行っている。

健康づくり計画に基づき、全般的な健康の施策については健康推進課が、母子については子ども家庭課が行っている。それを取りまとめているのが、この会議となっている。

委員

10ページの予防接種について、件数の記載はあるが、対象者と接種率を教えてください。

また、3歳児健診の健診時期を3歳6か月にしていくとあったが、具体的にどのようにしていくのか。

事務局

3歳児健診については、1年かけて徐々に3歳6か月に健診を受けられるよう、調整をしていくもの。

予防接種について、個別の接種率を出すことは難しいが、「ながくてのほけん」の54、55ページで混合ワクチン及びBCGと麻しん風しんの3歳時点の接種率が出ており、9割以上は接種している。また、愛知県に提出する予防接種実施報告書でも、概ね9割以上は定期の予防接種を受けている印象である。

委員

去年、麻しんが話題になり、他の地域で麻しんの接種率が下がってきたと聞いたので、長久手はどうか気になっている。

事務局

長久手は、2期の接種率が下がることなく接種率95%以上をキープしている。勧奨方法としては、夏休み前、冬休み前と春休み前の年3回、接種歴のない方に通知を行っているので、接種率が高いと思われる。

委員

带状疱疹予防接種の助成が始まったということだが、案内は既に送っているのか。

事務局

带状疱疹予防接種は、任意接種のため個別に通知はしていない。広報7月号に掲載していることや保健センターや市役所、医療機関にチラシを設置している。また、インターネットと窓口で申込ができるので、日々申込者が増えている状況である。

委員

不活化と生ワクチンの2種類あり、値段や接種回数も違うが、市民が迷わないように説明はしているか。

事務局

有効性や予防効果について、不活化ワクチンの効果が高いことが分かるよう案内している。また、かかりつけ医と相談してから接種するよう案内している。

## 第2 健康づくり計画（第3次）策定について

### 事務局説明

資料に基づいて説明

### 質疑応答・意見等

事務局

本日は、健康づくり計画（第3次）の基本理念を候補の3つの中から決められたらと考えている。

委員

健康づくり計画の中の基本理念という前提だと、「健康」はなくても良いかもしれないが、この3つから考えると「健康」という文字が入っている①が良いのではと思った。

委員

意見が出にくいのは、第2次計画から第3次計画になるにあたって、わくわくするような新しいワードが出ていないことや、計画がどう変わっていくかが見えないからではないか。どの候補も耳触りは良いが、新しいものではない。せっかく新しい基本理念を出すのであれば、もっと分かりやすく誰の心にも届くようなものにしてはどうか。

また、基本方針について、厚生労働省が日本人は眠れていないと出していたが、睡眠が6つの分野のどこに入るか分からない。

また、食事の目標が昔から同じ目標である。達成の難しい内容なので同じになってしまうのも分かるが、時代背景が変わってるので、それを反映した目標があると良いと思った。

事務局

基本理念の3つについて、①の「全ての市民が健康で豊かに生活できるまち 長久手」は、身体的な健康や心の健康も含め豊かに、満たされた状態で生活を送れるイメージ。②は①と似ているが、周囲が決めた健康ではなく、主観的に楽しい、心地よい等と感じる事を重視して「豊かな日々を実感できるまち 長久手」とした。③は、「すこやか」ということで、身体的な健康や心の健康を含めたうえで、1人では頑張れなくても皆と一緒にすこやかになるという思いを込めて「みんなのすこやかな輪を広げるまち 長久手」としている。

睡眠について、第2次計画から「こころ」の分野の中に休息を含めており、第3次計画についても

精神科的なところだけではなく、休息も含めたところの分野を入れていく予定

委員

コロナ禍を経て、人と人とのつながりが健康に影響することが分かった。コミュニティー等のエッセンスを加えると良いのでは。

事務局

SDGs の誰一人残さないというのを取り入れ、柔らかい言葉で表現したものが「輪を広げる」という言葉となっている。

委員

「輪を広げる」という、取組の方向性としてはとても良いと思う。

委員

全ての方が健康ではなく、病気等の方もいる。そういった方も今より良い生活をしようと思える基本理念の方が良いと考える。

事務局

本日、基本理念を決定することが難しいことや、たくさんの貴重な意見をいただいたので、基本理念を再検討していきたい。

(午後 3 時 30 分終了)